



28年11月4日

北名古屋市議会議長
沢田 哲 様

会派名 公明党
代表者 猶木 義郎



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	猶木義郎 間宮文枝 齊藤裕美	
日程	28年10月6日から 10月7日まで 2日間	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
10・6	全国都市問題会議 岡山市 岡山国際ホテル	人が集いめぐるまちづくり 国内外にひらけた都市の活力創出戦略 基調講演 まちの見方、見つけ方 人口減少社会における都市の活力創出
10・7		パネルディスカッション

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	通信費	参加費
137,388 円	68,280 円	39,000 円	円	円	30,108 円

第78回 全国都市問題会議

人が集いめぐるまちづくり

—国内外にひらかれた都市の活力創出戦略— のまとめ及び報告

議題解説

1.はじめに

人が“集いめぐる”“まち≒都市”について、時間軸と空間軸を織り交ぜながら考察し、“まちづくり”を議論する際のきっかけとしたい。

2.“まち”とは何か

—集いの場としての多様な“まち”—

私たちの住んでいる“まち”は多様である。それは、都市が歩んできた歴史の現れである。“まち”に共通するのは、人が集うことである。

私たちの住む都市の多くは古い都市に新しい都市が重ねられて現在に受け継がれてきたと言える。それぞれの都市には驚くほどの個性があるが、これはそれぞれ「歴史的な背景があつてのこと」なのである。

各都市が抱えている課題の解決策は、その都市固有の歴史や形態、そして実情を踏まえたものでなければならないであろう。

3.都市は何によって形成されるか

—集いめぐる場としての意義—

- (1) 機能的な都市と総合的な都市
- (2) 都市間と都市内の交通・流通網
- (3) 情報の蓄積・発信
- (4) 都市の活力の源泉としての“集う”“めぐる”

今、“人が集いめぐるまちづくり”について議論することは、都市の都市たる所以を改めて問うことである。各都市でその活力を創出したり再生したりするために、様々な取組が盛んに行われているが、これはまさに、都市が都市たる所以を作り出す、あるいは取り戻す取組だと言い換えることもできよう。

4.都市を取り巻く変化

(1) グローバル化

—都市間競争の拡大、訪日観光客の急増—

(2) 人口構造の変化とライフスタイル

(3) イノベーションの展開・浸透

—生の体験、生活実感のある“まち”—

(5) 産業・雇用構造の変化

—ワークバランス重視へ—

5.人が集いめぐるまちづくりのために

(1) 「まち」—人が集いめぐる場の形成—

①人間的なスケールの都市空間

②拠点づくりとネットワーク形成

(2) 「人・活動（しごと）」—“まち”に活力を生むもの—

①資源活用のイノベーション

②多様性と地域の新たな関係性の構築

6.おわりに

「どのような都市像を目指すのか」、この課題が市政に携わる私たち一人一人に問われている。今回の会議では、都市の活力創出につなげるべく、これまで述べてきたような“人が集いめぐる”という都市の本質やそれに関わる多様な視点を念頭に、様々なまちづくりについて、議論を深めたい。

基調講演

ドイツ文学者・エッセイスト

池内 紀

ドイツ文学の専門家らしく、ドイツ人の国民性や都市の成り立ちを軸に日本人の国民性や都市の成り立ちについて第二次世界大戦後の復興から考察した。

特に池内先生の講演で印象に残ったことは、

ドイツは、街全体が記憶都市として出来ている。

ドイツは、第二次世界大戦に関する負の記憶を片時も忘れないように人名や月日が通りの名前になっている。

ドイツは、村の名前を決して消さない。それは、村の歴史が失われないようにするため。だから合併はしない。地形や歴史に応じて郡の中で公共施設を分担し予算の分配をしている。

ドイツは、倫理で判断をする。

ドイツは、権利と義務は背中合わせと納得している。

日本は、権利は非常に主張をするが、義務には無関心。

日本は、郡に予算権はなかったもので、それぞれの歴史や由緒を持った市町村が合併し、消失してしまった。日本ほど名前の壊れた国はない。

と評価されたことである。

各都市が抱えている課題の解決策は、その都市固有の歴史や形態、そして実情を踏まえたものでなければならぬとするならば日本は平成の大合併でその基盤を失ってしまったと言えるのかもしれない。

主報告

人口減少社会における都市の活力創出

大森 雅夫 岡山県岡山市長

平成 21 年に全国で 18 番目の政令指定都市となり、平成 28 年 4 月現在、人口約 72 万人、面積 790 km²の広大な市域を有している。

岡山市の取組

- (1) 地域経済の活性化による、魅力と活気あふれるまちづくり
— (特性をいかした産業の振興や広域観光の推進) —
— (回遊性向上社会実験) —

— (移住・定住の促進) —

(2) コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり

— (路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ及び JR 吉備線の LRT 化の検討) —

— (自転車先進都市おかやま) —

— (生活交通確保事業) —

(3) 歴史と文化が薫り、誇りと一体感の持てるまちづくり

— (岡山芸術交流 2016) —

— (おかやまマラソン) —

— (岡山城と岡山後楽園の連携) —

— (新しい文化芸術施設の整備) —

(4) 安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり

— (充実した保育サービスの安定的確保) —

— (ワークライフバランスの推進) —

(6) 住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり

— (健^{けんこう}幸ポイントプロジェクト) —

が紹介された。

素晴らしい多くの取組が紹介されたが、わが市とは都市の規模、人口や財政すべてにおいて格差があり、取組を取り入れることは困難な事例であった。

全体所感

今回の会議では、観光立国をめざす都市による取組発表やパネルディスカッションであり、経済的に裕福な都市だからできる提案であったように感じた。

西春町と師勝町が合併をして 10 周年の今年、わが市においては多くの 10 周年記念事業が計画され実現されている。その中で、官学協力も推進されている。

多くの市民の参加を募りながら、田んぼアートを実施し、田植えや稲刈り体験をしました。また、コマのまち・きたなごやフェスティバルの一環として「同時にコマを回した最多人数にチャレンジ！！めざせ世界記録」を実施し、977人が参加して891人が達成しギネス世界記録に認定されました。

わが市には、回想法事業と加藤家、昭和日常博物館、芸術大学の彫刻が楽しめるアートエリアロードがあり、改めて身の丈に合ったまちづくりがされていると感じた。